



広島県東部アサリ協議会（浦島地区）

浦島地区について

浦島地区は、尾道市の南東部の浦崎町と百島町にある地区の産業は、農業や漁業を主体としており、漁業はアサリや刺網、小型定置網などが営まれる。

地区の海岸線には国や県が造成した人工干潟が複数あるのが特徴で、そこではアサリを中心とした漁業が行われている。

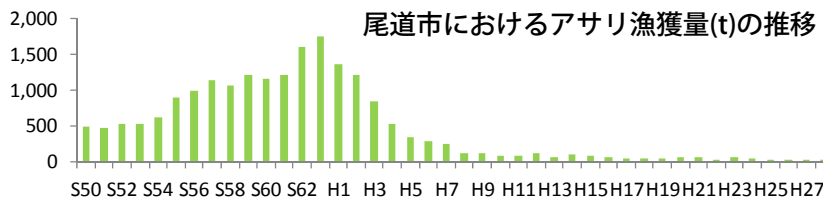


干潟の現状とこれまでの取り組み

(1) 干潟の現状

浦島地区に複数造成された干潟は、アサリ等の二枚貝の生息場、魚介類等の産卵・育成場として機能しており、地区の基幹産業である水産業の重要な生産場となっていた。

しかし、現在、①干潟における砂の移動、②クロダイ・エイ類による二枚貝の食害、③地区の松永湾側にあるアサリ一大生産地「山波の洲」における資源量減少による稚貝供給量の低下によって、アサリ資源が大きく減少しており、干潟の生産力や生物多様性機能の劣化が懸念されている。



(2) これまでの取り組み

アサリ資源の再生を目的に、平成 25 年度に「広島県東部アサリ協議会（浦島地区）」を結成した。

当該地区におけるアサリ資源再生のポイントは、①効果的な稚貝の確保、②砂の移動による稚貝の逸散防止、③クロダイ・エイ類の食害対策である。そこで、「網袋」を活用した稚貝の確保・保護、「被覆網」を用いた食害・逸散対策を以下のポイントを踏まえて実践し、現在、主要な活動場所の 2 地区で一定の成果をあげている。

【網袋を活用した稚貝の確保・保護】

ポイント 1	袋の中に入れる材料は、現地の干潟の粗い砂 (2mm) や細かい礫 (2~4mm) がベスト
ポイント 2	袋網に入れる砂は、稚貝が多く集積するような場所のもの ※自然に網に入る稚貝だけを確保するだけでなく、既に着底しているであろう稚貝も確保する
ポイント 3	袋網の一部は、被覆網を固定するための重しとして網の縁に設置。袋網の埋没防止にもつながる
ポイント 4	稚貝が殻長 1cm~2cm 程度まで育つ約 1 年後に、被覆網の中に砂ごと移植

【被覆網による食害・逸散対策】

ポイント 1	メンテナンス (交換等) しやすい小型の網 (2m×4m 程度) を主に用いる
ポイント 2	設置は、稚貝はいるが、親貝が「いない」もしくは「僅かにいる」場所
ポイント 3	干潟のアサリ等を面的に保護するために、複数の小型の被覆網を連結して張る
ポイント 4	放置すると被覆網下のアサリが高密度になり生残率が低下する恐れがあるので、殻長 30mm を超える個体を年 1 回程度間引く

新たな取り組み

(1) 活動場所の新たな追加

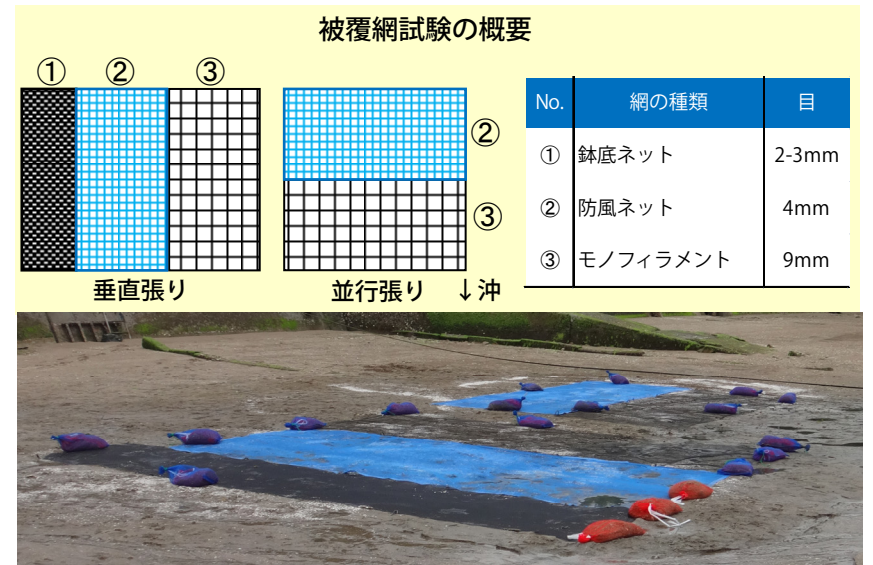
浦崎地区は、地区を挟んで北に松永湾、南に備後灘を臨む。現在、主要な活動場所は備後灘側で、アサリ資源の再生に一定の兆しがみえてきた。しかし、かつてのアサリ一大生産地「山波の洲」を有する松永湾側は、その資源再生が未だ課題となっている。

そこで、今年度から松永湾に新たに活動場所を 1 地区設け、アサリ資源再生の取り組みを試験規模でスタートすることにした。

(2) まずは、効果の高い被覆網試験から・・・

新たな地区での活動は、これまでの取り組みで効果の高かった「被覆網」による食害・逸散対策を、まず試験的に実施することにした。

被覆網試験では、アサリの生息状況だけでなく、網の種類、張る方向などの検討も併せて行うことにした。試験は、視認サイズの稚貝が確認できる 5 月に網を設置し、開始した。



試験の結果と今後の課題・方針

被覆網試験の結果は、設置半年後の秋季に対照区ではアサリが認められなかったのに対し、対策区では 100 個体/m² 以上確認することができ、その効果は明らかであった。特に、①防風ネットや②モノフィラメントで効果が高く、4mm 目以上の網が有効と考えられた。

また、以下のことも考察できた。

- ・9mm 目の網は 4mm 目に比べ軽く、1 人で網の設置・交換等ができて省力化が図れる。
- ・藻類が網についた場合の掃除は、鉢底ネット (トリカルネット) が簡便である。今後は、目合いの大きいタイプで検討を深める。
- ・並行張りの網は、波浪の影響により流されやすく不適である。

当該地区は、冬季波浪の影響を受ける場所である。今後は、その影響を把握した上で、活動の本格化が可能か検討を深める。

